

大 賞	企業名称	株式会社伍魚福(兵庫県珍味商工協同組合)
	取組名称	「日本の食品業界の良いスパイラルの起点になる」ことを目指した総合的なSDGsへの取組み
	本取組が貢献するSDGsの目標番号	5(ジェンダー平等を実現しよう)、8(働きがいも経済成長も)、12(つくる責任 つかう責任)

【取組概要】

2021年6月に中期経営計画として「伍魚福ビックバン計画」を策定。「日本の食品業界の良いスパイラルの起点となる」ことを目標とし、食品業界はもちろん、地域、社会、環境、SDGs全般、世界平和等に、どのように貢献していくかを考え、単年度の計画にもSDGsを組み込み、各部署で業務へ落とし込んでいる。その取組の一環として、2021年度は、資材廃棄ロス削減、女性社員の積極的採用、知的障害者の就労支援、従業員労働環境の整備に重点的に取り組んだ。

【実績概要】

資材廃棄については、半年で77%の削減に成功、女性従業員の比率は全従業員で50%以上を達成。正社員の女性比率も42%に改善。知的障害者の就労支援については年間83万円の取組を実施。従業員労働環境の整備においては、介護休暇制度を充実させるなど、伍魚福の全ての活動にSDGsの思想を取り入れ、総合的な取組によって地域、社会に貢献。2022年2月には、得意先、協力工場にも当社のSDGsに対する考え方を情報発信し価値観を共有した。

【評価コメント】

○「12.つくる責任、つかう責任」に関連して、商品の完全廃棄をゼロにすることを将来の目標に掲げ、まずは資材廃棄の削減を、社内の部門横断型のプロジェクトを立ち上げ、様々な取引先も巻き込んで実施している点、および今後、食品工場向けにSDGsの勉強会の実施を検討している点は、効果、参画性、将来性の観点で評価できる。また、自社の取組を広報誌で発信していることは、透明性の観点で評価できる。

○SDGsに対して、非常に前向きに捉えており、資材廃棄の削減、女性や障がい者の雇用拡大、従業員への教育、協力企業や地域のステークホルダーへの啓発等、多岐にわたる取組みは大いに評価できる。さらに、成果をきちんと数値化し、業績に連動させている点も素晴らしい。このような取り組みを今後も継続し、成果を出し続けることができるか、来年以降の動きを報告して欲しい。

○自社内職員で目標を設定、達成のために取り組むことで従業員の意識改善につながっているであろうことは評価したい。また、結果としての資材廃棄量削減につながったこと、成果を公表し、外部に伝えていることは高く評価できる。

優 秀 賞	企業名称	株式会社しいの食品(東京珍味食品協同組合)
	取組名称	生産時に排出される廃棄物の削減、再利用
	本取組が貢献するSDGsの目標番号	12(つくる責任 つかう責任)

【取組概要】

塩辛、酒盗の生産により、排出される廃棄物を再利用し釣り餌、集魚剤などへ商品化。廃棄物の削減、再利用に繋げる。

【実績概要】

新事業部(フィッシング事業部)の立ち上げ。独自の製法により開発、商品化された集魚剤、釣り餌の販売による収益化。生産時排出される廃棄物の削減、再利用。

【評価コメント】

○生産時に排出される廃棄物を活用して、天然由来成分100%の新たな製品を開発した取組は、効果、独自性、将来性の観点で評価できる。また、製品開発にあたり、製品の利用者の協力も得ている点は、参画性の観点で評価できる。

○これまで廃棄していた商品製造時の材料に独自技術で工夫を重ね、別ジャンルの新たな商品として開発し、売上に貢献できる取り組みは継続性、独自性の観点からも素晴らしい。今回は社長が中心となって、発想や事業化につなげているが、今後は他の従業員からの発想やアイデアをSDGsに基づく考え方で、商品化や業務の取り組みにつなげて欲しい。

○廃棄物削減の取り組みから新たな事業部創設まで、非常に高く評価される。事業化され、ごみのリサイクルにつながる独自性、またSNSなどを活用した情報発信など、評価したい。

審査員特別賞	企業名称	あづまフーズ株式会社(中部珍味食品協同組合)
	取組名称	新たな食の選択肢のご提案！フードテックで食の安全供給にも貢献！？ プラントベースと見た目重視の「まるで魚」で、水産資源枯渇の危機啓蒙
	本取組が貢献するSDGsの目標番号	3(すべての人に健康と福祉を)、4(質の高い教育をみんなに)、14(海の豊かさを守ろう)、15(陸の豊かさを守ろう)

【取組概要】

2019年、2020年の魚卵原料の禁漁をきっかけに持続可能な水産資源の確保を考えるようになった。今まで多く水産資源の恩恵を受けてきた弊社だからこそ、日本では他に類を見ない代替シーフード、まるで魚シリーズの販売によりSDGsに関心を持ってもらい、水産資源を少しでも永く末端消費者にお届け出来るよう新しい選択肢としてのメディアを含めた啓蒙活動をしている。
通販サイトあづマルシェからSDGsに特化した商品のサイトAZUMARCHE2.0へのリニューアル。

【実績概要】

2021年11月の発売以来多くのお客様に商品をお届けできている。通販、国内業務用、貿易分を含めると2022年8月末で21570本の販売実績がある。そのうち半分ほどを占めるグループ会社への販売によって活動は日本にとどまることなく世界に向けても届いていると思われる。国内においては発売前からテレビ番組、新聞、雑誌等への露出増。WBSやYahoo!ニュース、レシピサイトのmacaroniに取り上げられた際は通販サイト5年分の売上より多くのお問合せ、売上が達成した。

【評価コメント】

○持続可能な水産資源の確保を目標とした新たな製品の開発・販売の取組は、効果や独自性の観点で評価できる。透明性についても、取り組みを積極的に広報を行っている点では、評価ができる。

○代替シーフードという着眼点は自社の強みを活かしながら、世界的にニーズの高い代替タンパクとして商品開発をしている取り組みと併せて大いに評価できる。ヴィーガンのマーケット拡大を見据え、これからの売り上げに貢献できる商品開発は先見性を感じらる。この取り組みの意義や重要性をどのように訴求し、SDGsに寄与できる仕組みにつながっていくのかを今後は検証したい。

○代替肉・海産物は現在食の業界では関心は高く、世界的にビジネス勝機は高いと考えられる。あともし可能なら包装での環境配慮もあるとより環境課題に取り組む先進性があるのでは、と考える。取り組み自体は決して独自のものではないが、他企業・団体と連携する取り組みも進めており、積極的なメディア露出も含め、広がり点は評価できる。

全珍連理事長賞	企業名称	株式会社かね徳(兵庫県珍味商工協同組合)
	取組名称	食品ロスの低減・廃棄物の発生抑制を目的とした、賞味期間延長の取組み
	本取組が貢献するSDGsの目標番号	12(つくる責任 つかう責任)

【取組概要】

令和2年度、日本全体での食品ロス量は522万トン(農林水産省)で、「腐敗・カビの発生・賞味期限が過ぎた」が、食品ロスの主な原因とされています。弊社の主な取扱商品は、生の魚介類を使用した「生珍味」で、解凍後10℃以下で1日という、非常に短い賞味期間の商品も品揃えしています。そこで、食品ロスの低減と廃棄物の発生抑制を目的とした、賞味期間延長の試作に取り組みました。

【実績概要】

- ①さしみタイプのあかにし貝商品：賞味期間10℃・1日間→10日間に延長(2022年4月発売)。
 ②ユッケ味サーモン商品：賞味期間10℃・12日間→20日間に延長(2021年11月発売)。
 直近3ヶ月間の出荷数量の前年比が、それぞれ①140%、②184%となり、賞味期間の延長により、ロスが少なくなることで、取り扱っていただけるお客様が増えたと考えられます。

【評価コメント】

○食品ロス提言と廃棄物抑制を目的とした、賞味期限延長の取組は、品質と価格のバランスも見るとともに、消費者への食の安全意識と健康意識の高まりを考慮して、保存料を使用しないという取組は、効果、普及・汎用性、独自性、将来性の観点で評価できる。

○食品ロス問題が大きな社会課題として、問題視される中、業界の取組みとして、賞味期限の延長を図る取組みをおこない、尚且つ出荷量の増大に結びつける成果を定量的に確認している点は評価できる。ただ同様の取組みは業界としても数が多いため、さらにもう一歩進んだ仕組みづくりに今後は期待したい。

○食品ロスの原因の一つに賞味期限があるが、この問題に取り組み、商品化をしたことは高く評価できる。また、今後の目標としてパッケージもあげていることは評価したい。

全珍連理事長賞	企業名称	株式会社昆布森(四国珍味商工協同組合)
	取組名称	産業×福祉 昆福(こんぷく)事業
	本取組が貢献するSDGsの目標番号	8(働きがいも経済成長も)、17(パートナーシップで目標を達成しよう)

【取組概要】

効果的な施設外就労のプロセスによる製造現場での生産性向上と就労支援。

【実績概要】

人材不足・雇用難のなか生産量維持のため障がい者の方々に現場での作業に従事してもらっています。一般就労を目指す方には現場での就労の実績を踏む機会となり、当社としては不足している労働力の確保となっており、両組織にとってwinwinの関係となっています。当社での就労経験から地元企業に正規雇用された方もいます。今後は当社での雇用も目指しています。

【評価コメント】

○障がい者支援施設との連携を、企業が求める品質・納期・コストの観点で両組織間において情報共有をしている点、および就労支援をしている点については、参画性の点で評価できる。また、将来において、一般就労を目指している点については、将来性の点で評価できる。

○障がい者の就労支援の企業と委託契約を結び、継続的な業務に結び付けている点は評価できる。また、単に障がい者の就労支援という観点だけではなく、自社の生産性の向上に資する取り組みとして考えていることも素晴らしい。今後は地域や他社への波及、さらにもう一歩進んだ仕組みづくり等に取り組んでいくことを期待したい。

○障がい者雇用は非常に重要であり、高く評価できます。今後、商品の環境配慮などに取り組むとより良いのではないかと思います。